

いよいよ来月に採用広報解禁を控えた2026年卒就職戦線。学生の最新動向を知るべく、キャリタス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点の状況を尋ねた。採用広報解禁前にもかかわらず内定率が4割に迫るなど、早期化の進行が顕著に表れている。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「希望する企業から内定をもらえるか」が最多も、前年より減少(76.0%→69.8%)
- 選考への不安は、「面接」(58.6%)、「筆記試験」(34.7%)、「エントリーシート」(34.3%)の順

2. 現在の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」48.6%、「なんとなく決まっている」35.3%
- 1位「銀行」、2位「インターネットサービス」、3位「情報処理・ソフトウェア」

3. インターンシップ等(※)の参加状況

- 参加経験者はモニター全体の92.7%
- 平均参加社数11.2社のうち、就職したいと思った企業は3.4社。参加企業の3割

4. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」73.3%。前年同期を2ポイント上回る。受験社数は平均4.2社
- 「内定を得た」39.9%で、前年同期(33.8%)を6.1ポイント上回る

5. 地元就職の希望状況

- 地元就職希望者は、地元進学者の73.3%。地元外進学者(Uターン希望)は30.6%
- 地元/地元外進学者とも、地元就職したい理由は「地元が好き/暮らしやすい」がトップ

6. 働き方についての考え

- 「1つの分野で専門性を高めたい」45.8%⇔「幅広い業務を経験したい」54.2%
- 「多少忙しくても早く出世したい」46.4%⇔「出世より自分のペースで仕事したい」53.6%

7. 就職先候補として判断するために知りたい情報

- 「福利厚生」「仕事内容」が6割で多い。「勤務地」「社風」など知りたい情報は多岐にわたる

8. 生成AIの利用状況

- 学業での利用経験者は8割強(84.7%)。就活では3人に2人が利用(66.5%)

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

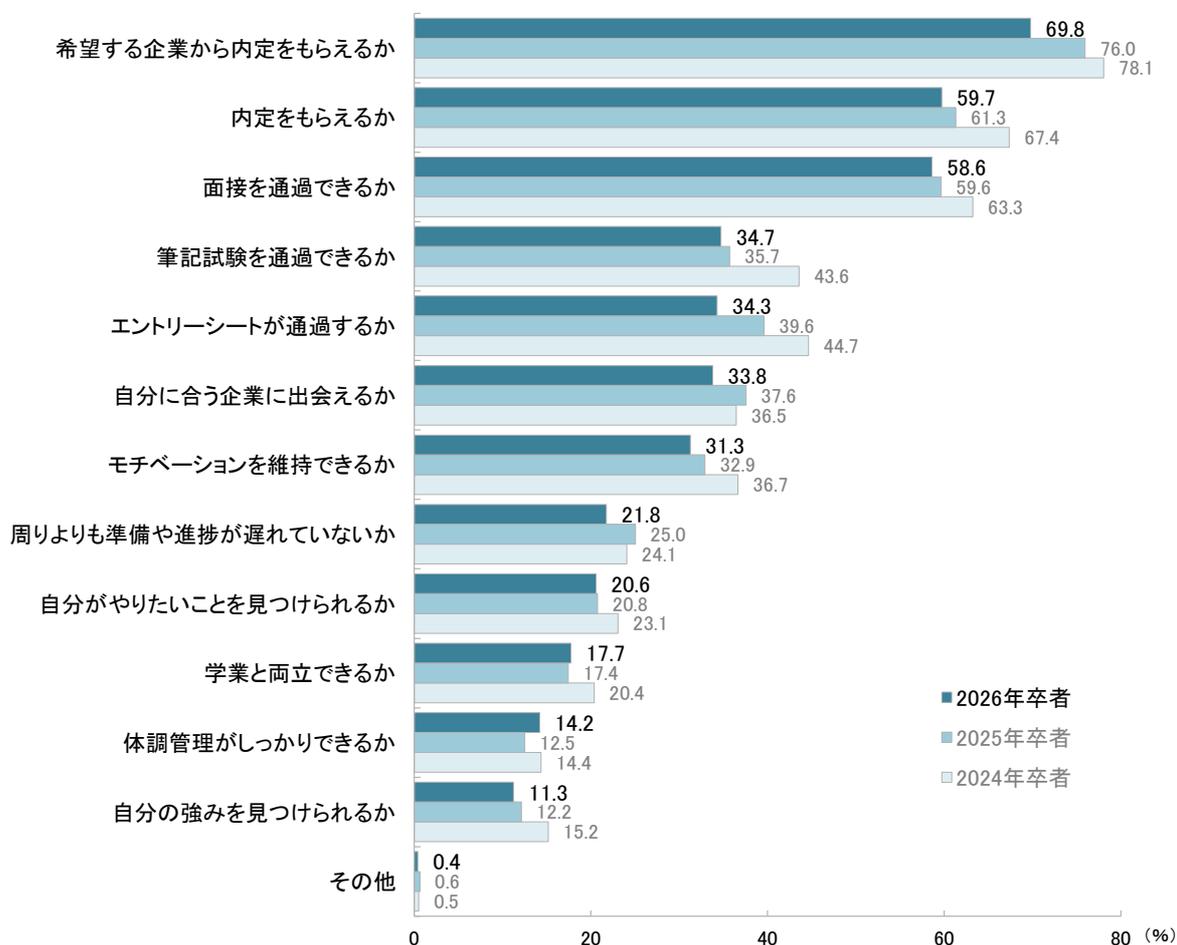
調査対象：2026年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数：1,071人(文系男子216人、文系女子483人、理系男子233人、理系女子139人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年2月1日~6日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. 就活解禁1カ月前の不安

3月の就職活動解禁を目前にどのような不安を感じているかを尋ね、過去2年の結果と比較した。最も多いのは、今年も「希望する企業から内定をもらえるか」(69.8%)。次いで「内定をもらえるか」(59.7%)が続き、内定獲得への不安が上位に並ぶ。ただ、どちらの項目もこの2年で大幅にポイントが減少。早期化が進み、2月時点で内定を得た学生が増加していることが影響していると考えられる。(内定率については5ページで詳述)

3番目以降の項目も、前年調査に比べ全体的にポイントが減少している。ただ、「面接を通過できるか」は6割弱(59.6%)が選んだほか、「エントリーシート」「筆記試験」など、選考試験への不安を感じる学生は少なくない。寄せられたコメントからも、学生が様々な不安を抱えながら就職活動に臨む姿がうかがえる。

<就活解禁1カ月前に感じている不安>



■就職活動への不安

- 内定を得られなかったらどうしよう、と強い不安を感じている。 <文系女子>
- 早期選考も始まっており、自分がその波に乗り遅れないか心配。 <文系男子>
- 面接は得意だがESが苦手なため、ESを突破できるかが不安に感じる。 <理系女子>
- 長期化しており、体力的に大変だと感じる。 <理系男子>
- 周りと比べてしまい焦ってしまう。 <理系女子>
- 何が正解かわからず、受験と違った難しさがあり悩んでいる。 <文系女子>
- 就活は正しい道を進んでいるのか不安になることもあるが、良い機会として成長していきたい。 <理系男子>

2. 現在の志望業界

志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が48.6%で、前年同期調査(45.2%)を上回った。志望業界確定のタイミングが早まっている様子が見て取れる。「なんとなく決まっている」(35.3%)を合わせると8割を超える(計83.9%)。「決まっていない」という回答は1割台(16.2%)。文系に比べ理系の方が決定している学生が多く、特に理系男子は6割強が「明確に決まっている」と回答した(64.4%)。

「なんとなく決まっている」と回答した学生も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた(40業界から選択)。全体で最も多かったのは「銀行」で、前年6位から大きく上昇した。好業績に加え、初任給の引き上げや人事制度の見直しなど、学生にとってプラスの材料が多いことが影響しているとみられる。特に文系で人気が高く男女とも1位。全体の2位は「情報・インターネットサービス」で、3位「情報処理・ソフトウェア」と続き、IT人気は続いている。ITは属性によらず上位に位置しているのが特徴的。理系は、ITのほかに製造業が上位に連なる。

< 志望業界の決定状況 >

(%)

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	48.6	45.2	48.6	38.5	64.4	56.8
なんとなく決まっている	35.3	34.8	34.3	42.7	22.7	33.8
決まっていない	16.2	20.0	17.1	18.8	12.9	9.4

< 志望業界 (上位 15 業界) >

※5つまで選択 (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 銀行 ⑥	19.3	銀行 29.6	銀行 19.9	情報・インターネットサービス 24.6	医薬品・医療関連・化粧品 34.9
2 情報・インターネットサービス ①	17.1	情報・インターネットサービス 18.4	官公庁・団体 18.9	電子・電機 23.6	素材・化学 31.7
3 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ②	15.8	商社(総合) 17.9	マスコミ 15.1	自動車・輸送用機器 23.2	水産・食品 29.4
4 官公庁・団体 ⑨	15.0	調査・コンサルタント 17.3	商社(総合) 15.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.3
5 水産・食品 ④	13.8	官公庁・団体 16.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.0	機械・プラントエンジニアリング 21.2	官公庁・団体 15.1
6 商社(総合) ⑬	13.4	建設・住宅・不動産 15.6	情報・インターネットサービス 12.8	素材・化学 18.2	情報・インターネットサービス 14.3
7 調査・コンサルタント ④	12.7	運輸・倉庫 14.0	ホテル・旅行 12.3	医薬品・医療関連・化粧品 14.8	建設・住宅・不動産 13.5
8 建設・住宅・不動産 ⑦	12.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.4	水産・食品 12.2	精密機器・医療用機器 13.8	電子・電機 12.7
9 素材・化学 ③	12.0	商社(専門) 12.3	エンターテインメント 12.0	調査・コンサルタント 13.3	精密機器・医療用機器 7.9
10 電子・電機 ⑧	10.9	証券・投信・投資顧問 12.3	商社(専門) 11.7	通信関連 12.3	自動車・輸送用機器 7.9
11 医薬品・医療関連・化粧品 ⑪	10.8	水産・食品 11.2	教育 10.5	水産・食品 11.8	商社(総合) 7.1
12 マスコミ ⑩	10.5	保険 10.6	運輸・倉庫 10.2	エネルギー 9.9	調査・コンサルタント 7.1
13 商社(専門) ⑰	10.0	信用金庫・労働金庫・信用組合 10.6	調査・コンサルタント 9.9	農業・林業・鉱業 9.9	エネルギー 7.1
14 運輸・倉庫 ⑮	9.7	エネルギー 9.5	建設・住宅・不動産 9.5	建設・住宅・不動産 9.4	農業・林業・鉱業 7.1
15 エネルギー ⑬	9.0	マスコミ 8.9	保険 9.7	銀行 8.9	印刷・パッケージ 6.3

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

3. インターンシップ等の参加状況

2月の調査時点のインターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を見てみよう。

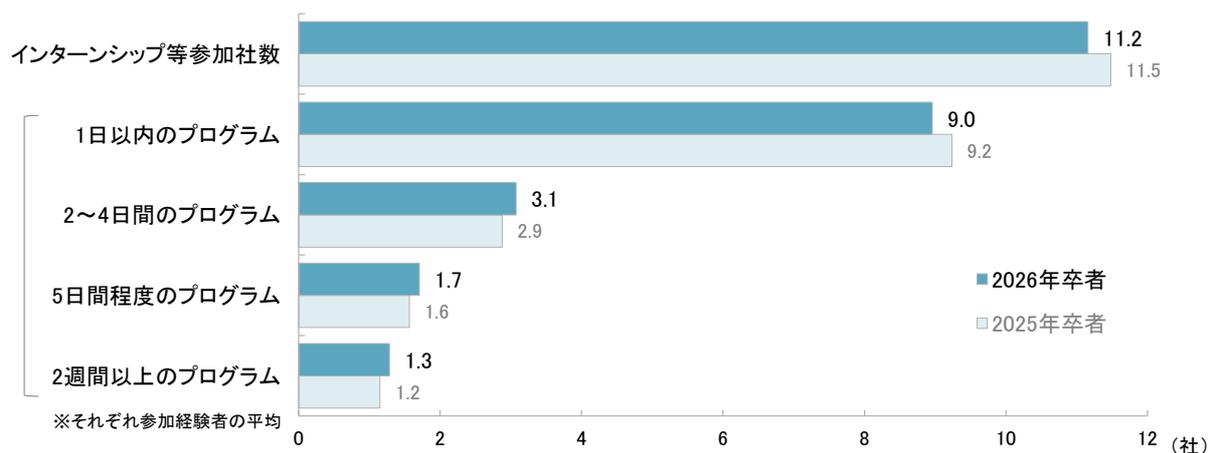
プログラムの日数によらず参加経験がある学生は、モニター全体の92.7%。参加社数の平均は11.2社。高水準ではあるものの、ともに前年同期実績をやや下回る。序盤の調査(昨年9月)では、前年同期を上回っていたが、秋以降は伸びが鈍く、参加企業を絞った学生もいたのだろう。

但し、参加社数をプログラム日数ごとに見ると、複数日程で実施されたプログラムは前年同期を上回っており、積極的に参加していた様子が見られる。

<インターンシップ等経験率>

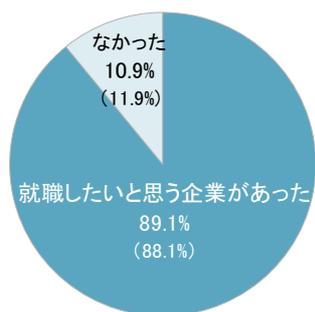
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ等に参加した	92.7	93.6	91.2	93.4	92.3	95.7
1日以内のプログラム	88.5	90.9	88.0	89.9	86.3	89.2
2~4日間のプログラム	56.3	59.2	56.5	54.0	59.2	59.0
5日間程度のプログラム	31.5	33.3	27.8	30.4	40.8	30.9
2週間以上のプログラム	7.4	11.3	2.8	5.8	14.6	15.1

<プログラム日数別参加社数>



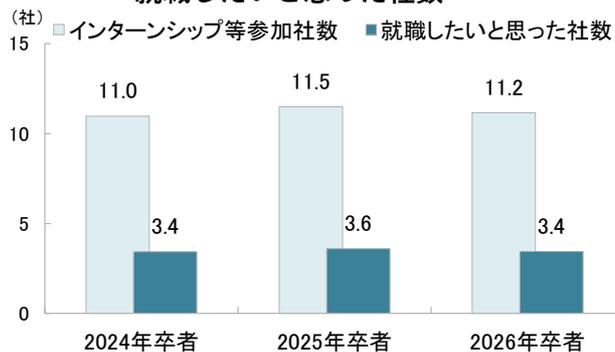
プログラムに参加した中に、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、約9割が「あった」と回答した(89.1%)。全体の平均参加社数11.2社のうち、就職したいと思った企業は3.4社で、参加企業の3割に相当する(30.3%)。

<インターンシップ等参加企業への就職意向>



※()内は前年同期調査の数値

<就職したいと思った社数>



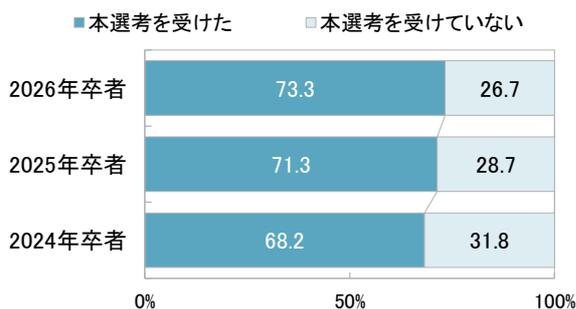
※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

4. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

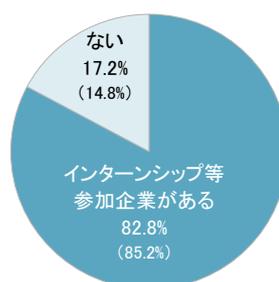
2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。ES提出や、筆記試験、面接など「本選考を受けた」という回答が73.3%で、前年同期調査を2ポイント上回った。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は4.2社。受験社数は理系より文系、女子より男子で多い傾向があり、文系男子は平均4.6社。

また、本選考受験者の8割以上（82.8%）が、受験企業の中にインターンシップ等のプログラムに参加した企業があると答えた。

<2月1日現在の本選考の受験有無>



<うち、インターンシップ等参加企業の有無>

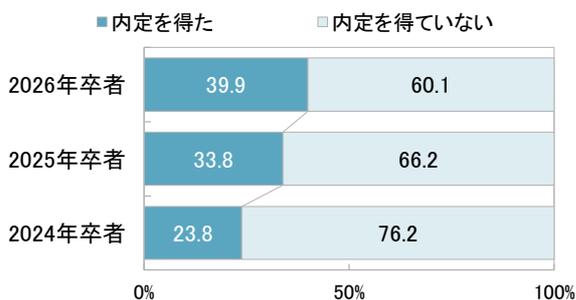


※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	73.3%	71.3%	75.5%	69.4%	76.0%	75.5%
選考受験社数(平均)	4.2社	4.5社	4.6社	4.2社	3.8社	3.7社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.4社	2.5社	2.4社	2.4社	2.4社	2.1社

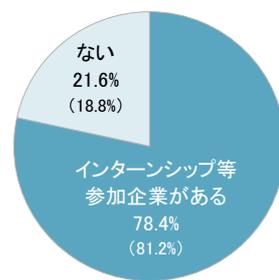
内定状況については、「内定を得た」との回答が全体の39.9%。前年調査（33.8%）を6.1ポイント上回り、先月調査に引き続き早期化の進行が顕著に表れている。本選考受験経験率に文理差はないが、内定率については差が目立ち、理系は男女とも4割台後半に達している。

<2月1日現在の内定の有無>



*「内定」には、内々定を含む

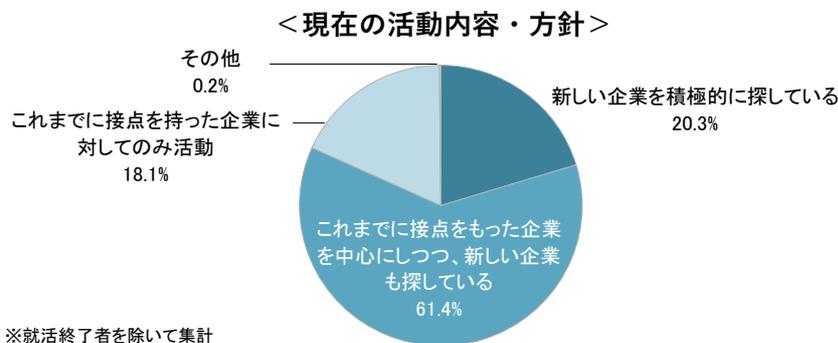
<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	39.9%	33.8%	35.2%	38.3%	48.5%	46.0%
内定社数(平均)	1.6社	1.6社	1.6社	1.6社	1.8社	1.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.2社	1.2社	1.1社	1.2社	1.4社	1.0社

就職活動中の学生(モニター全体の93.7%)に調査時点の活動内容・方針を尋ねた。最も多いのは「これまでに接点をもった企業を中心にしつつ、新しい企業も探している」という回答で、約6割(61.4%)。インターンシップ等に参加したり、就職イベントなどで知ったりした企業に加え、新しい企業との出会いを模索している学生が多いことが分かる。ここに「新しい企業を積極的に探している」(20.3%)を加えると、8割を超える(計81.7%)。



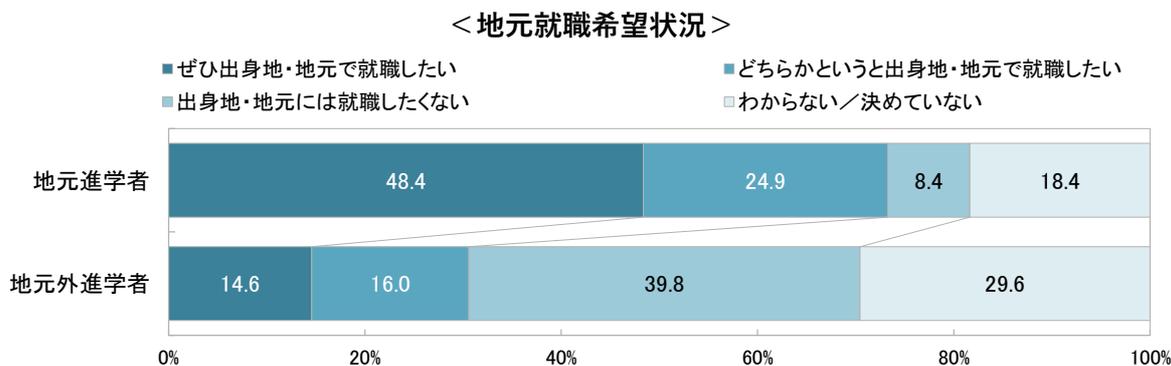
	(%)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
新しい企業を積極的に探している	20.3	26.2	18.1	17.8	13.1
これまでに接点をもった企業を中心にしつつ、新しい企業も探している	61.4	57.8	65.5	57.2	65.6
これまでに接点をもった企業に対してのみ活動	18.1	16.0	16.2	25.0	20.5
その他	0.2	0.0	0.2	0.0	0.8

- 内定を1社いただいているのでこれから希望に近い企業に挑戦していきたいと思います。 <文系男子>
- 自分に合っているのにまだ気づいていない企業があると思うので探したい。 <文系女子>
- 自分の将来を決める大事な時期ですが、人によってスピードに差があったり、色々な方法があることに驚いています。今後もしっかり良い企業を探しながら自分の将来について考えたいと思います。 <理系男子>
- 早期化が進んでいるため、夏冬インターンに参加して早期選考の案内が来た企業ばかりを受けている状態であり、なかなか今から新しい会社にエントリーをしようという気になれない。 <文系女子>

5. 地元就職の希望状況

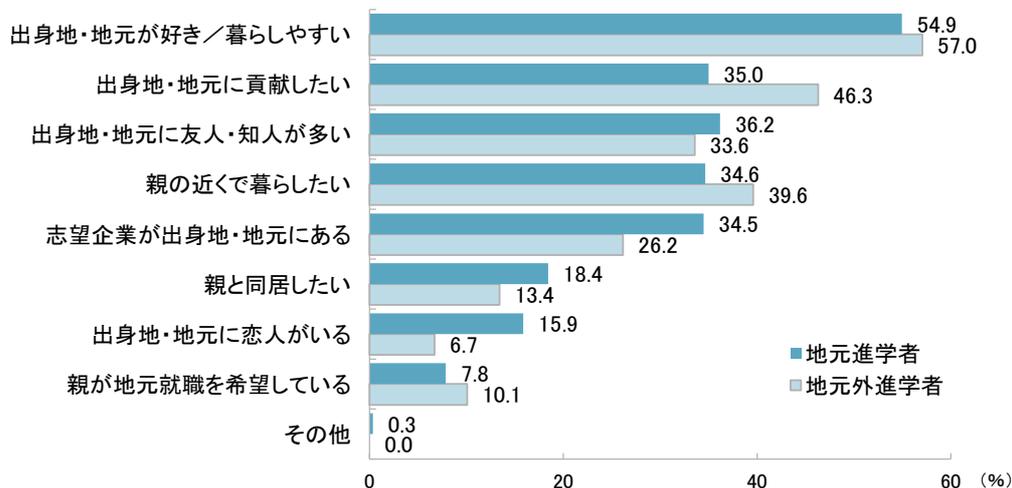
出身地・地元での就職活動について尋ね、地元の大学に通う学生(=地元進学者)と、地元を離れて進学している学生(=地元外進学者)とに分けて集計した。

「ぜひ出身地・地元で就職したい」「どちらかという出身地・地元で就職したい」を合わせた地元就職希望の割合は、地元進学者で7割を超える(計73.3%)。地元外進学者では3割程度(計30.6%)にとどまり、対照的。



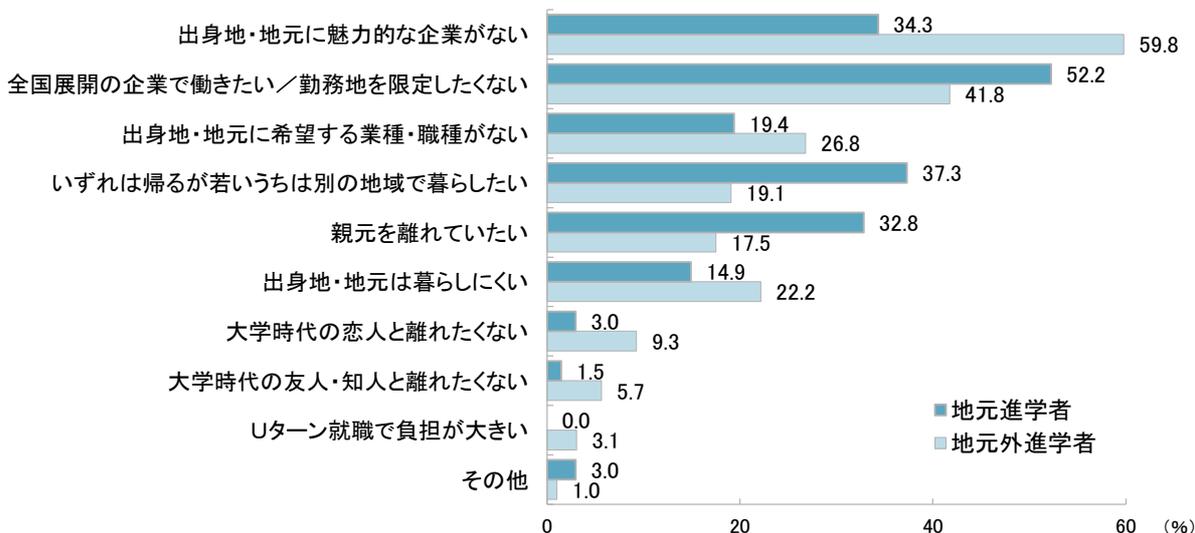
地元就職をしたい理由を見ると、最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で、地元進学者・地元外進学者ともに5割以上が選んだ(54.9%、57.0%)。また、地元外進学者は「出身地・地元に貢献したい」が地元進学者より多く(46.3%)、地元進学者は「志望企業が出身地・地元にある」が比較的多い。

<地元就職をしたい理由>



一方、地元就職をしたくない理由を見ると、地元外進学者は「出身地・地元で魅力的な企業がない」が約6割で最も多い(59.8%)。離れて暮らしていることで、地元企業の情報を得にくい点も影響しているだろう。地元進学者では「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」が半数を超える(52.2%)。次いで「いずれは帰るが若いうちは別の地域で暮らしたい」(37.3%)が続く。

<地元就職をしたくない理由>



■地元就職への考え

- この環境に慣れているので、変えたくない。
- 社会人1年目から一人暮らしをするのは、精神的にも金銭的にも難しいと考える。
- 地元で研究職に就ける企業が少ない。
- 実家に帰りたくない。地元は給料も低い。
- 都会で自分自身の実力を試してみたいと考える。

- <地元進学／文系男子>
- <地元進学／理系女子>
- <地元進学／理系男子>
- <地元外進学／文系女子>
- <地元外進学／理系男子>

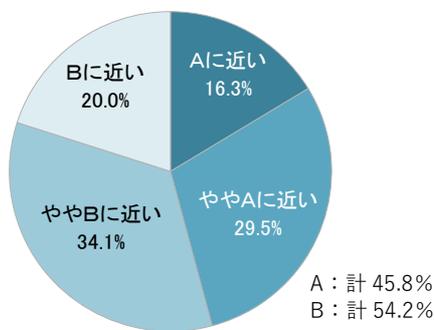
6. 働き方についての考え

働き方に関する4つの指標について対照的な項目を示し、現時点での希望に近い方を選んでもらった。まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える学生は合わせて45.8%。「幅広い業務を経験したい」という学生の方がやや多い(計54.2%)。また、「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」は7割強で(計74.5%)、「会社に任せたい」(計25.5%)を大きく上回る。自立的にキャリアを形成していきたい学生が多いようだ。

出世意欲については「仕事が多少忙しくても早く出世したい」が4割強(計46.4%)。「出世するより自分のペースで仕事がしたい」(計53.6%)がやや上回る。男子より女子の方がワークライフバランスを意識する傾向が強い。転勤意向については、「転勤したい」は2割台にとどまる(計25.5%)。

<働き方についての考え>

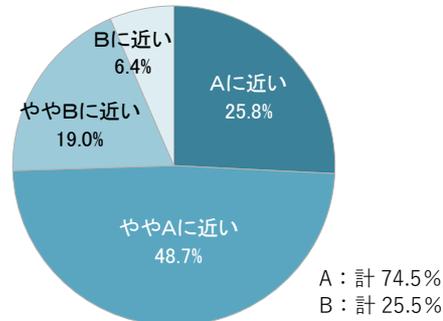
A: 1つの分野で専門性を高めたい
B: 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	17.1	13.3	15.0	26.6
ややAに近い	30.1	27.1	34.8	27.3
ややBに近い	33.3	34.2	36.5	32.4
Bに近い	19.4	25.5	13.7	13.7

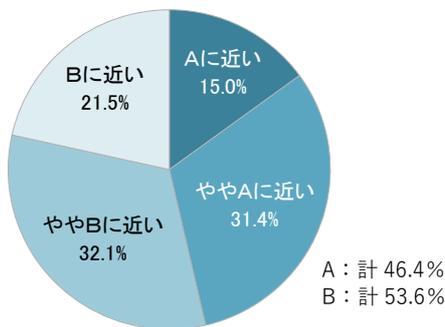
A: キャリアパスは自分で主導権をもちたい
B: キャリアパスは会社に任せたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	25.5	28.4	22.7	23.0
ややAに近い	46.3	47.8	51.9	54.0
ややBに近い	18.5	18.8	21.5	17.3
Bに近い	9.7	5.0	3.9	5.8

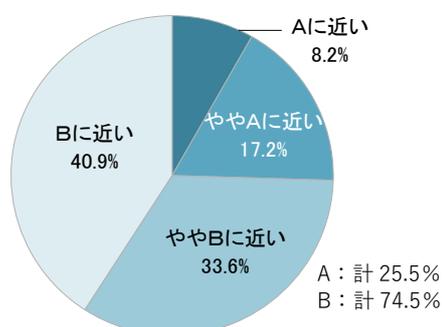
A: 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B: 出世するより自分のペースで仕事がしたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	20.8	8.5	21.0	9.4
ややAに近い	35.2	25.7	36.9	30.2
ややBに近い	26.4	34.8	31.3	41.7
Bに近い	17.6	31.1	10.7	18.7

A: 転勤したい
B: 転勤したくない(1つの拠点にずっといたい)



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	8.8	8.7	7.7	5.8
ややAに近い	21.3	14.1	17.2	15.8
ややBに近い	36.1	34.2	34.8	22.3
Bに近い	33.8	43.1	40.3	56.1

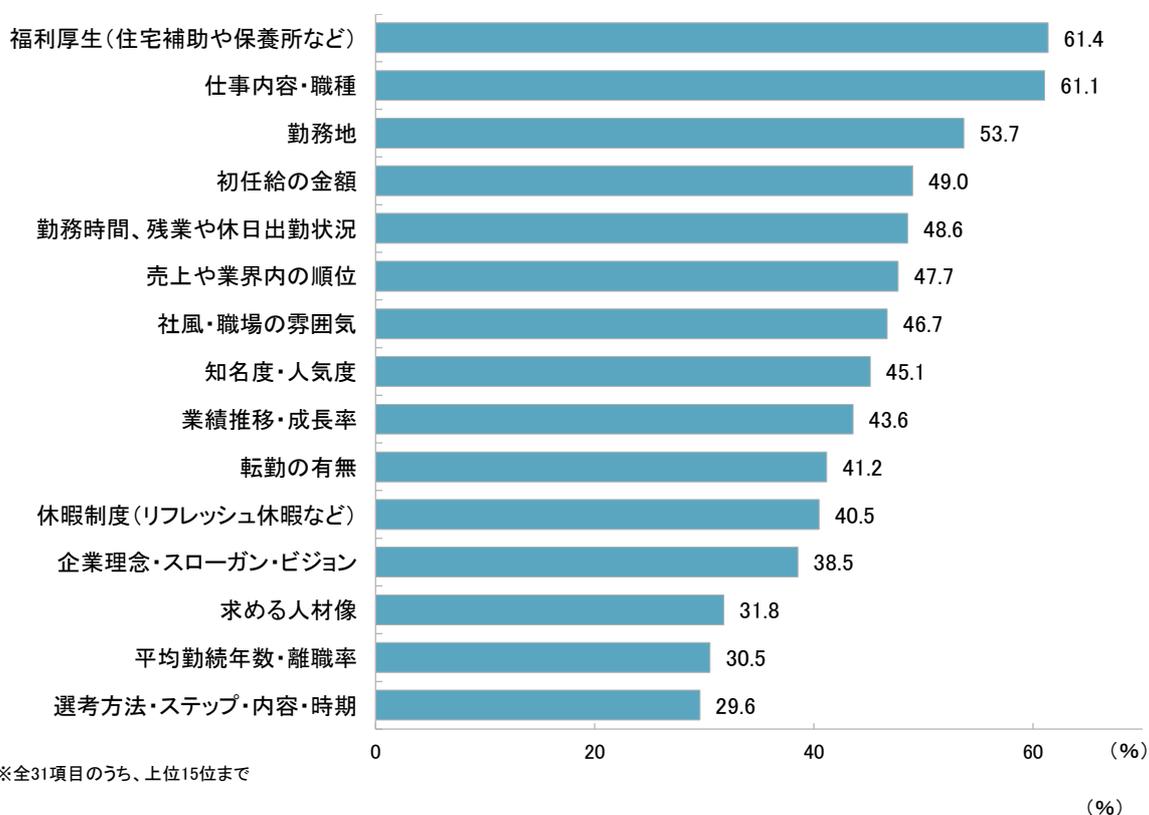
※構成比の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある

7. 就職先候補として判断するために知りたい情報

就職先の候補として興味が持てるかどうかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいと思っているのかを尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、「福利厚生」「仕事内容・職種」の2つが多く、6割以上の学生が選んだ(61.4%、61.1%)。次いで「勤務地」も半数を超えた(53.7%)。「初任給の金額」(49.0%)、「勤務時間、残業や休日出勤状況」(48.6%)、「売上や業界内の順位」(47.7%)等が僅差で続く。4割台の項目が並び、学生によって求める情報が異なっている様子がうかがえる。

これを文理男女別に見ると、女子は全体的に数値が高く、多くの項目を選択。様々な角度から企業を判断しようと考えていることが読み取れる。ただし、「知名度・人気度」「売上や業界内の順位」については男子の方が高い。また、理系は「業績推移・成長率」が文系に比べ高いなど、属性により特徴が見られる。

＜就職先の候補として興味が持てるかを判断するために知りたい情報＞



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
福利厚生 (住宅補助や保養所など)	49.5	71.2	57.9	69.8
仕事内容・職種	54.6	65.8	58.4	69.1
勤務地	45.8	60.9	45.9	66.2
初任給の金額	43.1	52.8	47.6	56.8
勤務時間、残業や休日出勤状況	39.8	59.0	38.6	56.1
売上や業界内の順位	48.1	43.9	56.2	45.3
社風・職場の雰囲気	36.6	56.3	34.8	64.7
知名度・人気度	47.7	41.4	52.8	37.4
業績推移・成長率	42.1	40.4	48.9	50.4
転勤の有無	32.4	52.2	27.0	54.0
休暇制度 (リフレッシュ休暇など)	35.6	48.4	29.6	46.0
企業理念・スローガン・ビジョン	34.3	44.1	31.3	44.6
求める人材像	24.5	38.9	25.8	39.6
平均勤続年数・離職率	27.3	35.2	24.0	35.3
選考方法・ステップ・内容・時期	25.9	35.0	23.6	32.4

知りたい情報として最も多くの学生が挙げた「福利厚生」について、具体的に重視する分野を 3 つまで選んでもらった。「住宅関連」が圧倒的に多く 7 割を超える (73.6%)。一人暮らしをする場合、家賃は大きな出費になるため、住宅補助や社員寮の有無は大きな関心事となっているようだ。次いで「通勤関連」「働き方関連」が同水準で続く。「働き方関連」は男子に比べ女子で高く、「子育て・介護関連」とともにライフイベントに合わせた柔軟な働き方ができるかどうかに関心を寄せている様子が見て取れる。

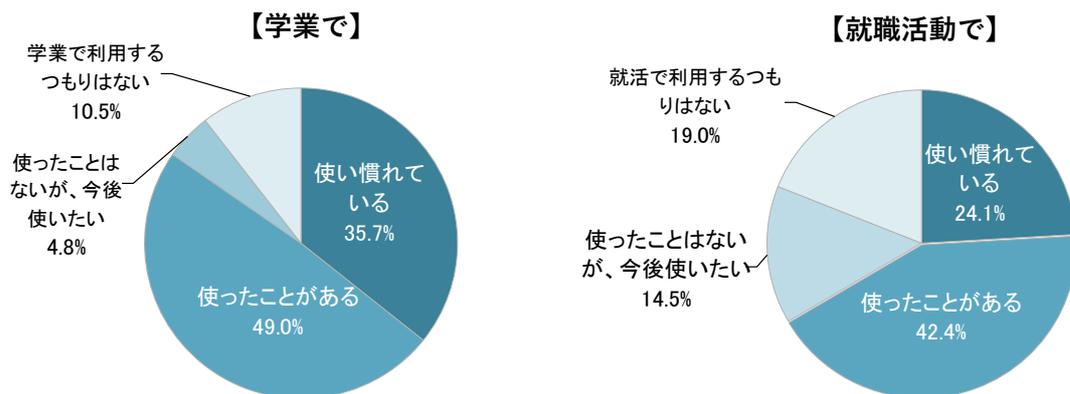
<福利厚生で具体的に重視している分野 (上位 3 つまで選択) >

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
住宅関連 (家賃補助、社員寮・社宅の整備、引越し費用補助など)	73.6	74.4	69.6	81.1	72.4
通勤関連 (通勤手当、ガソリン代補助など)	45.8	45.9	46.7	45.0	43.3
働き方関連 (時短勤務制度、リモートワーク促進手当など)	45.3	39.6	52.5	39.2	47.8
子育て・介護関連 (入園・就学費用補助、社内託児所の整備など)	30.8	24.2	35.5	22.5	48.5
自己啓発関連 (資格取得補助、研修制度や施設、セミナー受講費補助など)	26.8	30.0	24.2	26.1	26.9
余暇・ヘルスケア関連 (特別休暇、社員旅行、人間ドック費用補助など)	19.8	18.8	20.8	20.7	17.9
食事関連 (社員食堂の整備、食費補助など)	7.4	6.8	5.6	12.6	7.5
財産形成関連 (企業年金、財形制度など)	6.4	5.8	6.4	7.7	6.0
慶弔・災害関連 (結婚・出産祝い金、見舞金など)	3.6	5.3	3.4	2.3	1.5
その他	0.1	0.0	0.0	0.5	0.0

8. 生成 AI の利用状況

生成 AI の利用状況を「学業」と「就職活動」に分けて尋ねた。「使い慣れている」「使ったことがある」を合計すると、「学業」は 8 割以上で (計 84.7%)、「就職活動」は 6 割台 (計 66.5%)。「使ったことはないが、今後使いたい」が 14.5%あり、就活が本格化していくにつれ利用する学生の割合も増えそうだ。一方で「就活で利用するつもりはない」と答えた学生は約 2 割 (19.0%)。

<生成 AI の利用>



■就活での生成 AI 利用について

- 自己分析やエントリーシートに記入する内容のブラッシュアップに利用している。 <文系男子>
- ES のアイデア出しによく使っている。 <理系男子>
- プロットを書いてもらったり、自分が書いた文章から想定される質問は何かあるか出してもらったりしている。 <文系女子>
- 自分の考えを上手く言葉にできないときに利用してみたい。 <理系女子>
- 就職活動は人生の中で大切な選択なので、自分で責任を持ちたい。 <文系男子>